



# コロバだより

2020. 3. 1. No. 25

発行 沖洲放課後クラブ(愛称 コロバクラブ)

〒770-0874 徳島市南沖洲1-3-4

携帯 090-7626-5643 (加戸)

メール okinosu.hot.chapel@gmail.com

## キャンプと直接体験の楽しさ

コロバクラブ 事務局 加戸 裕子



今年度のコロバススペシャルキャンプは、子どもゆめ基金の助成金を戴いて、国立淡路青少年交流の家にて1泊2日で行いました。参加者は、幼児2名・小学生15名・中学生5名・大人12名で、計34名でした。

今回のキャンプのねらいは、小学生にとっては、豊かな自然の中で楽しい活動を体験させ、美しい海で存分に泳ぎ、砂浜で遊ぶ体験や自然を

観察する体験等を通して、自然の素晴らしさやその恩恵に対する感謝の心を育てたい。また、さらに異年齢のグループ遊びやゲーム・他者との交流や協力を通して、コミュニケーション能力や自尊感情や問題解決能力を高めたい。お世話係として参加する中学生には、自己有用感とリーダーシップを養いたいと願っていました。

幸い天候にも恵まれ、午後からの海での活動は、暑すぎず寒すぎず楽しく活動できました。海の中に設営された筏から元気よく飛び込む子どもたちもたくさんいました。きれいな石や貝殻ひろいに夢中の子たちもいました。波に揺られて、癒しの時間を楽しむ子もいました。保護者の協力もあり、スイカ割りも楽しくできました。

グループ活動やゲームの中では、学校や年齢を超えて助け合う姿や、励まし合う姿がたくさん見られました。自分のわがままに気づけた子や助けてもらう嬉しさを知った子もいました。

ただ、全体的に見れば、あれも体験して欲しい、これも体験して欲しいと少し盛りだくさんのプログラムになり、立派な施設である反面、会場全体が非常に広く、しかも私たちの宿泊棟が本館や研修棟から最も遠いD棟1階という悪条件の中で、保護者の方々や幼児さんや低学年の子どもたち、またお世話下さった中学生にはやや負担の大きな活動になってしまったことを申し訳なく思っています。

来年度は、今年度の反省を踏まえて、さらにみんなが楽しめて、しかも充実した活動にしていきたいと願っています。今回のたくさんのご協力ご支援を心から感謝します。

コロバ便り21号でも紹介しましたが、東京でアニメ監督として活躍中の加戸誉夫氏(甥っ子)は、「豊かな想像力はバーチャルなゲーム機ではなく、直接体験によってこそ育まれる。そして、豊かな直接体験の中で将来役立つたくさんの心の引き出しが創られる。引き出しがたくさんある人ほど想像力が豊かで、人間関係も豊かになる。」と語っています。現在コロバクラブは、幸い多くのボランティアの先生方に恵まれ、直接体験を大事にしながら活動しています。今後とも子どもたちのたくさんの心の引き出し作りのためにご協力戴ければと思います。

## 《保護者や子どもたちの感想から》

- ・みんなといっぱいあそべてよかった。おともだちがいっぱいつくれた。うみがたのしかった。かいがらがいっぱいひろえた。リーダーのおねえちゃんやおにいちゃんたちがやさしかった。よるのゲームがたのしかった。N.K(年長)
- ・うみがひろいからびっくりしたよ。うみがたのしかったよ。ねるのがきもちよかったよ。だれかがないていたら、これからどうしたのっていうよ。Y.T(小1)
- ・みんなであそぶことやみんなですてっだってということやいろいろあったのしかった。すいかわりがたのしかった。ごはんがおいしかった。Y.T(小1)
- ・みんなでごはんが食べて私はとっても楽しかったです。私は将来世界中の水を集めて研究をしたいです。S.T(小4)
- ・海と宿泊が楽しかった。グループの子が面白かった。笑わしてくれて楽しかった。Y.O(小3)
- ・グループの子が優しくて面白くてよかった。おなかが痛い時「薬いる？」など心配してくれた。海で泳いだのが楽しかった。Y.N(小6)
- ・はっきり言ってどっと疲れた。想像以上の班員の元気に圧倒され、対応するのが精一杯であった。T.H(中2)
- ・初めて参加して、しかもいきなりリーダーだったので、ちゃんとできたか不安ですが、みんなすごく可愛かったです。自分がぐいぐい行き過ぎて、みんなに引かれて少し悲しい場面もありました。(笑) Y.I(中3)
- ・親子ともども初めての海での体験、大変大きな収穫になりました。中学生リーダーさんお世話になりました。自身体調もすぐれず、周りの人が助けてくれて有難かったです。(保護者)
- ・他の学校の子との異年齢の交流は、とても刺激になったと思います。体全体を使って遊ぶのも少なくなっていました。とても楽しそうに元気になっている姿を見て今後も積極的に参加したいと思います。子どもの成長にはいろんな子がいる中で過ごす時間貴重です。(保護者)

## 《コロナバスベシャルキャンプ写真から》



《親のためのコミュニケーション講座より》 ～ 第5回「任せる子育て」～

①まずは、みんなで「課題の分離」をします。課題の分離って聞きなれない言葉ですが、その結末が誰に降りかかるかによって、親の課題、子どもの課題と分けていきます。宿題をするかしないか、傘を持って行くか行かないか等ほとんどが子どもの課題であることにびっくりします。(但し後の人生に重大な影響を与えるものは共同の課題にできます。)

②次に子どもの課題に親がいつも口を出す弊害について考えます。

- ・子どもが自信を失う
- ・依存的になる
- ・反抗的になる
- ・失敗を親(人)のせいにする
- ・親が忙しくなる

最後の「親が忙しくなる」・・・には、思わず笑ってしまいますが、ほんとにその通りですね。

③最後にこれだけ弊害があるのが分かっているのに親はなぜ口出しせずにはいられないのか考えます。子どもが信頼できない、失敗が怖い、ダメな親だと思われたくない、子どもの将来が不安、自分もそうやって育てられたのでよいモデルがない等々、親の問題や親の不安が見えてきます。しかし、子どもたちは親の課題を解決するために存在するものではありません。子どもたちには、ぜひ、失敗を恐れる生き方や親に依存する生き方ではなく、失敗から多くのことを学び、他の人と豊かに繋がる生き方をして欲しいですね。

《コロバクラブの活動日記から》 卒業おめでとう会～自分たちで考えたゲームで遊ぼう！

卒業おめでとう会は、「自分にもよくて相手にもいい」を合言葉に、まずはどんな料理を作って食べるか、どんなことをして遊ぶかをしっかり話し合います。今回は、卒業生のIちゃんが喜んでくれるようにと話し合う姿や「まとめるのは、僕がします。」と話し合いをリードしてくれる子どもたちもいて、頼もしい限りでした。



また、大人も子どももみんなが楽しめるようにと自分たちで、遊び方もルールも一生懸命考えている姿にも頼もしさを感じました。変化の激しい時代だからこそ既成概念にとらわれず、大人の指示待ちではない、創造性豊かな子どもたちを応援したいと思います。

写真は、段ボールのおかげに隠れながら雪玉に当たらないように前進して、前方にある赤いボールを先に下に置いたチームが勝ちの新聞雪合戦です。20秒ルールなどみんなが楽しめる素敵な工夫が一杯でした。



《コロバクラブの活動写真から》

